第十講・古文、漢文を読んでみよう

一題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

今は昔、竹取（たけとり）の①おきなといふ（う）者ありけり。野山にまじりて竹を取りつつ、よろづ（ず）のことに使ひ（い）けり。名をば、さぬきのみやつことなむ（ん）いひ（い）ける。

その竹の中に、もと光る竹なむ（ん）一筋（ひとすじ）ありける。あやしがりて、寄（よ）りて見るに、つつの中光りたり。それを見れば、三寸（さんずん）ばかりなる人、いとうつくしうて（しゅう）ゐ（い）たり。

〈「竹取物語」より〉

〈意味〉

昔、竹取のおじいさんという人がいました。野山に分け入って竹を切り取っては、いろいろなことに使っていました。名前を、「さぬきのみやつこ」といいました。

ある日のこと、竹林の中に、根元の光っている竹が一本ありました。おじいさんが②不思議に思って近よって見てみると、竹の中が光っています。中を見ると、手のひらほどの小さな人が、たいへんかわいらしい様子ですわっています。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「おきな」とは、どういう意味ですか。〈意味〉の文章中からぬき出しましょう。

(2)　竹取のおじいさんの名前は何ですか。

(3)　――線②竹取のおじいさんが不思議に思ったのは、どんなことでしたか。〈意味〉の文章中の言葉を使って答えましょう。

---

(4)　この文章の内容としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　竹取のおじいさんの願いがかない、竹林の中で子どもをさずかることができた。

イ　竹取のおじいさんは、竹の中にすわっている手のひらくらいの大きさの人を見つけた。

ウ　竹取のおじいさんは、手のひらくらいの大きさの人を、こっそり竹の中で育てていた。

(5)　この文章をふくむ物語がもとになってできたお話を次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　一寸法師（いっすんぼうし）

イ　浦島太郎（うらしまたろう）

ウ　かぐやひめ

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

二題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

祇園精舎(ぎおんしょうじゃ)のかねの声、
諸行無常(しょぎょうむじょう)のひびきあり。
娑羅双樹(しゃらそうじゅ)の花の色、
①盛者必衰(じょうしゃひっすい)のことわりをあらは(わ)す。
おごれる人も久しからず、
ただ春の夜(よ)の夢のごとし。
たけき者もつひ(い)にはほろびぬ、
ひとへ(え)に風の前のちりに同じ。

〈「平家(へいけ)物語」より〉

〈意味〉

祇園精舎という寺のかねの音は、②全てのものはうつり変わっていくものだという真理を、ひびきの中にこめています。

娑羅双樹という花の色は、今は勢いのある人でも必ずおとろえるという真理を表しています。

おごり高ぶっている人でも、ずっとそのままでいることはできません。ちょうど、短くてはかない春の夜の夢のようなものです。

勇ましく強い者も、最後にはほろんでしまいます。それは全く、風にふき飛ばされていくちりのようなものなのです。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　――線①「盛者必衰のことわり」とはどういうことですか。次の中からもっともふさわしいものを選び、記号で答えましょう。

ア　強い人の勢いはずっと変わらないということ。

イ　勢いがある人もいつかはおとろえるということ。

ウ　勢いのある人は今を大切にしているということ。

(2)　――線②「全てのものはうつり変わっていくものだ」とありますが、このことをどんなものにたとえて表していますか。〈意味〉の文章中から二つ、五字と十三字でぬき出しましょう。

(3)　この古文の特徴（ちょう）としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　語りかけるような言葉で親しみやすさを表している。

イ　ひらがなだけを使って分かりやすく説明している。

ウ　七音・五音を基本とした独特（どくとく）のリズムがある。

(4)　「平家物語」の説明としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　実際（じっさい）にあった戦いなどをもとにして書かれた物語である。

イ　作者が身近な出来事について思ったことを書いている。

ウ　昔から伝わる伝説をもとにした作り話である。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

三 題目　次の文章を読んで、あとの問いに答えましょう。

春はあけぼの。やうやう（ようよう）白くなりゆく山際（やまぎわ）、少し明（あ）かりて、紫（むらさき）だちたる雲の細くたなびきたる。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ（お）、ほたるの多く飛びちがひ（い）たる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行（ゆ）くもを（お）かし。雨など降（ふ）るもを（お）かし。

〈清少納言（せいしょうなごん）「枕草子（まくらのそうし）」より〉

〈意味〉

春はなんといっても明け方。だんだんとあたりが①白（しら）んで、山のすぐ上の空が少し明るくなって、紫がかった雲が細く②たなびいている様子。

夏は夜。月が出ていればもちろんよい。やみ夜でも、ほたるがたくさん飛びかっている様子。また、ほんの一つ二つ、ほのかに光って飛んでいくのも③よい。雨などがふるのも、またよい。

〈教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1)　作者がよいと思っている、春の時間帯を答えましょう。

(2)　――線①「白んで」とありますが、どうなるということですか。もっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　空がどんどん白くなっているということ。

イ　夜が明けて、空が明るくなるということ。

ウ　月が出て、白い光を放っていること。

(3)　――線②「たなびいている」様子を表しているものとしてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　空全体に厚くたちこめている。

イ　横に尾(お)を引いたようにうかんでいる。

ウ　小さく細切れになって散っている。

(4)　――線③「よい」という意味の言葉を古文の中からぬき出しましょう。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

四題目　次の漢詩を読んで、あとの問いに答えましょう。

春暁（しゅんぎょう）　孟浩然（もうこうねん）

春眠　暁（あかつき）を　覚えず
処処（しょしょ）に　①啼鳥（ていちょう）を　聞く
夜来（やらい）　風雨（ふうう）の　声（こえ）
花（はな）　落（お）つる　こと　知（し）る　多少（たしょう）

〈意味〉
春の明け方

春のねむりのここちよさに、
②夜が明けたのも気がつかなかった。
あちこちから、
鳥の鳴き声が聞こえてくる。
昨夜、③風雨の音が聞こえていた。
花は、いったい、どれくらい
落ちたのであろうか。

〈〈意味〉は教科書書きおろしによる〉

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

(1) この漢詩は、どんな季節の、どんな時間帯のことを表していますか。

(2) ――線①「啼鳥」とは何のことですか。〈意味〉の中からぬき出しましょう。

(3) ――線②「夜が明けたのも気がつかなかった」のはなぜですか。〈意味〉の中の言葉を使って答えましょう。

(4) ――線③「風雨の音」が聞こえたことで、作者はどのようなことを気にかけていますか。〈意味〉の中の言葉を使って答えましょう。

(5) この漢詩の特徴（ちょう）としてもっともふさわしいものを次の中から選び、記号で答えましょう。

ア　春の明け方のここちよさを、周りから聞こえてくる音を通して表現している。

イ　春の明け方のここちよさを、目で見た花の色のあざやかさで表現している。

ウ　春の明け方のここちよさを、はだに感じるあたたかさをもとに表現している。

©RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講・確認テスト

次の二重傍線部が修飾している箇所を選びなさい。

1　アあの　青い　イ車は　ウぼくの　エ父親のものだ。

2　校庭に　ア赤い　イチューリップを　ウみんなで　エ植えた。

3　私の　ア父は　イあの　大きい　ウビルを　エ設計した。

4　ア友だちと　イけんかした　ぼくは　とぼとぼ　ウ家に　エ帰った。

5　青い　ア服の　イ女性が　ウ私の　エ姉だ。

ⒸRECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　古文、漢文を読んでみよう

一題目

(1) おじいさん
(2) さぬきのみやつこ
(3) (例)根元の光っている竹が一本あったこと。
(4) イ
(5) ウ

二題目

(1) イ
(2) 春の夜の夢・風にふき飛ばされていくちり
(3) ウ
(4) ア

三題目

(1) 明け方(あけぼの)
(2) イ
(3) イ
(4) をかし

四題目

(1) (例)春の明け方
(2) 鳥の鳴き声
(3) (例)春のねむりがここちよかったから。
(4) (例)花は、いったい、どれくらい落ちたのだろうかということ。
(5) ア

〈確認テストの解答〉

１　イ　２　エ　３　ア　４　エ　５　ア

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。